放課後NPO「アフタースクール

発掘した大人を「市民先生」としたプログラムづくりを行い 地域の大人と子どもの「つなぎ役」がそれを取り戻そうとしている。 地域の中で子どもを育む力が失われつつある今、 子どもたちに豊かな育ちの場を提供する放課後専門NPOがある。 大人が「先生」として放課後の子どもたちのところへやってくる。



プログラムは放課後ならではの多彩なメニュー きなものに出会うことができる。2005年からこれまでに参加した子どもたち は、累計で延べ3000人以上になるという。



子どもに豊かな放課後を

参加できるようなプログラムづくりを、地 放課後NPO「After School!!」(以下、

> 楽器で演奏会」など、そのタイトルから楽 るのだ」、「ヒップホップ・ダンス」、「手作り 趣味・モノづくり」をテーマにつくり上げ れる人を探して行う。これまで「衣食住 域の中から子どもたちの先生となってく しさが伝わってくるものばかりだ。 たプログラムは、「初めてのフランス菓子」、 「子ども農園探検隊」、「ホンモノの家を作

ログラムを提供する活動を積極的に行っ 組んで、子どもたちに豊かな放課後のプ PO「LA's BEST」が、地域や企業と手を 中でもロサンゼルスでは、放課後専門のN が支援を行い、子どもの放課後の過ごし アメリカでは1990年代に入って行政 況に危機感を持ったことだ。その一方で、 ちが、今の子どもたちの置かれている状 害者や加害者になる傷ましい事件を耳に 方を改革する動きが活発になっていた。 過ごしている様子を目にしたスタッフた したり、子どもがつまらなそうに日々を そのきっかけとなったのは、子どもが被

をつくり出そうと考えたのだ。 け、失われつつある〈地域の力〉を取り戻 ラムを通して子どもたちと地域を結びつ うなアメリカでの活動をモデルに、プログ しながら、放課後の子どもたちを育む場 そこで、「アフタースクール」は、そのよ

様子について取材した。 織畑研副代表にお話を伺い、プログラムの た「アフタースクール」の平岩国泰代表と 今回は、この取り組みをスタートさせ

課後に、地域の力を活用して安全で豊か 行っている団体だ。子どもたちが放課後に な場を提供する活動を2005年から 「アフタースクール」)は、子どもたちの放







「放課後の学校」という舞台を存分に活かして、プログラムは実施される。フリスビ とドッジボールを組み合わせた新たなスポーツ「ドッチビー」など、「After School!!」



見つけることができるように工夫されて たダンスを本格的に習い始めるように テーマのプログラムから好きなものに出 いる。実際に、子どもたちがさまざまな 課後を!」をキャッチフレーズに、子ども の放課後を取り戻すように「テレビゲー も料理をするようになった」、「興味を持つ 会うことで、保護者からは「子どもが家で たちが遊びの延長でそれぞれに楽しみを ムより面白く、学習塾より学びがある放 そうした考えの下、プログラムでは、昔

の見せ所である。また、プログラムづくり ラムづくりは、スタッフにとって一番の腕 を始めてみると、声をかけた地域の人が さまざまなアイデアを練っていくプログ るものを、と考えている。人やテーマから ちを思い浮かべながら、面白くて学びあ スクール」のスタッフが、子どもたちの気持 てしまうことが得意技」という「アフター プログラムは、「何でもプログラムにし

テレビゲームよりも面白く

り、だからこそ子どもたちに放課後のプ り返ってみてそのように感じることがあ を伺った二人は、自身の子ども時代を振 び」、「学年を超えた交流」、「予期せぬ体 ログラムを提供できればとの思いがある 験」が少なくなったといわれている。お話 ると「外で遊ぶこと」、「自分で工夫した遊 今の子どもたちの放課後は、昔と比べ

なった」という声が聞かれる。

先生になることを嫌がるケースは少ない

織畑副代表は話してくれる。 できることを再認識して元気になる」と めて気づかされたのです。プログラムを通 ディネーターというつなぎ役がいなかった ます。また、こうした活動はこれまでコー 見せてもらってから始めるようにしてい 最初に大人に特技など、とにかく〈技〉を さんあることに気がつく。プログラムは、 と、意外とプログラムにできることがたく 思え』という心構えでいます。そうする を探していて、最近は『人を見たら先生と たりにし、大人は子どものために自分が して、子どもは〈カッコイイ大人〉を目の当 ために実現していなかったことにあらた 「地域の中でいつも『先生』になれる人

活動場所は放課後の学校

ているという。 港区など近隣の地域にも活動を拡大し ある。現在、東京の世田谷区では10校以 上の小学校で開催されており、目黒区 活動の舞台となるのは放課後の学校で

間で評判となって、「学校に子どもがいっぱ チラシ配布から始まり、徐々に保護者の 苦労したものの、学校での子どもたちへの シなどを配布してもなかなか集まらず 場所は地域の会館であった。当初は、チラ ことは非常に難しく、プログラムの開催 しかし当初、学校という場に入っていく







「放課後の家」づくりでは、"市民先生"である地元の建築家と 大工さんの指導の下、子どもたちが学校の授業では触れない ような電動ドリルなどを使って作業を行う。最初、安全面での 心配をする大人もいたが、大人たちは「見守る」ことに徹し、子 どもたちは先生のサポートの下、家を見事に完成させた。

写真/毎日小学生新聞

プログラムで重視すること

ムの効果が高まるからだ。 カの効果が高まるからだ。 カの効果が高まるからだ。 カの効果が高まるからだ。 カの効果が高まるからだ。 カの効果が高まるからだ。 カの効果が高まるからだ。 カの効果が高まるからだ。

ブログラムが行われていた。作業は、子ど取材時は「『放課後の家』ペンキ塗り」の

催する学校が増えていった。近くがかかったが、始めてみると次々に開での開催が実現した。活動開始から2年いいるからいらっしゃい」という誘いで学校

世田谷区では、1995年から区が実り組みで、小学生の放課後に幅広い遊びり組みで、小学生の放課後に幅広い遊びと、異なった年齢の児童の交流を図る場を学校内に設けている。そして、1999を学校内に設けている。そして、1999を学校内に設けている。そして、1999を学校内に設けている。そして、1999を学校内に設けている。そして、1999が導入された。新たな仕組み「新BOP」が導入された。現在、「アフタースクール」のプログラムは「新BOP」の活動スペースで行われる。スポーツ系・文化系・食など、その学校によって求めるニーズがあり、それに応じてトータルプログラムを企画・実行している。このように、学校とのさまざまな連携によって、最近では週に4つの学校でプログラムが展開されることもある。

ちらをやればいい。自由に過ごしてもらい などのおもちゃで遊んでいた。「放課後な ちの傍らでは、別の子どもたちが積み木 見が反映されていることが、低学年から 投票によって決められたという。全員の意 ち一人ひとりが考えた中からみんなの に服装を準備してから始まった。子ども もたちがペンキがついても大丈夫なよう 子ども自身が好きなことを自由に見つけ たい」と織畑副代表が話すように、そこは んだから、別のことをやりたかったら、そ く一緒に作業をする力の源になっている。 高学年までの子どもたちが学年に関係な に一放課後の家」は色鮮やかになっていく。 て勝った人がペンキを塗る。みるみるうち 所が少なくなってくると、ジャンケンをし ようにしてペンキを塗り進める。塗る場 合った色を作り、自分の場所を取り合う たちがペンキを混ぜ合わせてデザインに プログラムに熱心に取り組む子どもた 「放課後の家」のデザインは、子どもた

大人は手を出しすぎない

る場となっている。

り、一緒に作業をしながら時折アドバイる大人は、社団法人日本インテリアデザる大人は、社団法人日本インテリアデザる大人は、社団法人日本インテリアデザる大人は、社団法人日本インテリアデザる大人は、社団法人日本インテリアデザる大人は、社団法人日本インテリアデザる大人は、社団法人日本インテリアデザる大人は、社団法人日本インテリアデザ







地域や企業などにいるさまざまな大人を「先生」として、放課後だ からこそ行えるプログラムが子どもたちに提供されている。最近 では、マスコミなどで取り上げられる機会も多く、活動は内容の 充実を図りながら、ますます広がりを見せる。





今回お話を伺った放課後NPO「After School!!」代表の平岩国泰さん(右) と副代表の織畑研さん(左)。「将来、自分の子どもが通う小学校にも、豊かな 放課後プログラムがあるように」と、2児の父親でもある平岩さんは話す。 http://www.npoafterschool.org/

大人の目を子どもの放課後に

が自分の手でやればできるということを 進めている。そうすることで、子どもたち るだけ口出しをせず引いて見守るように

より強く実感できるからである。

することを目指している。すでにMacや 企業の資源を活用することで、これまで アルバム」を作るプログラムを行っている。 ソコンでデジタル写真を整理して「想い出 かけて、子どもたちにプログラムを提供 1Podで知られるアップル社と共に、パ 人々だけでなく、

企業等にも協力を呼び 「アフタースクール」は、今後、地域の

は、つい教えてしまう大人に対して、子ど もが失敗しても構わない。一番難しいの たちにとって絶対面白くなる」と話す。 を理解してもらうこと。その方が子ども もが自由にできるように放っておくこと スを送る。平岩代表は「放課後なので子ど が出てくる。 の社会的責任としての取り組みに説得力 近い内容でこうした活動を行うと、企業 なる。また、企業にとっては、実際の事業に にない内容のプログラムづくりが可 このように活動が広がりを見せる中

うにと、事前に大人が食材を取り分ける もたちがちゃんと料理を持つて帰れるよ には簡単になり過ぎていたのだった。 言う。実は大人が手を出し過ぎて子ども が「簡単過ぎてつまらない」と言っていると や?」と思い保護者に話を聞くと、子ども ん参加する子どもの数が減って、「お など、準備に手をかけた。しかし、だんだ は失敗があったそうだ。そのときは、子ど そんな経験から、今では、大人はでき 〈食〉をテーマにしたプログラムで 事の合間を縫って、区や財団などの助成 課題を挙げる。現在、メンバーは本業の仕 平岩代表は、「アフタースクール」を存続 課題が改善され、持続可能な組織への第 企業などとの連携が進めば、現在抱える 動し続けることが難しくなりつつある。 まるにつれ、今のマンパワーや資金力で活 を進めている。しかし、活動へのニーズが高 金をベースにあまりお金をかけずに活動 可能な組織にしていけるかどうかという 歩となるだろう。

織になれるように頑張っています。こうい よる世の中への影響力はもっと出てくるは 社会貢献であり、そうなることで活動に るぐらいの組織になることが私の最大の うことを仕事にしたいと言ってくださる ことをやろうと言ってもらえるような組 人がいて、ちゃんと仕事としてお願いでき 先駆的な取り組みであるため、同じ

課後に向くようになることを望みたい。 じめとする多くの大人の目が、子どもの放 を展開していくためにも、地域や企業をは もたちに充実した放課後を提供する活動 ず」と平岩代表は話してくれた。 「アフタースクール」が、今後さらに子ど

(HRI研究員 田口 智博

ーズに応えた

キッズベースキャンプ

子どもにより良い居場所を与えたいと願う親からも支持を集めている。 働きながら子どもを育てる親にとっては、悩ましい問題だ。 民間ならではのきめ細かいサービスは、 そうした悩める親に、ひとつの解決策を提供してくれるのがキッズベースキャンプだ。 学童保育が17時や18時で終わった後、子どもをどうするか。





キッズベースキャンプの第1号店である桜新町店。中2階に設 けられたロフトスペースは読書に最適。出店場所を選ぶにあ たっては、子どもたちが通いやすいだけでなく、"繁華街の誘 惑"が少ない立地を厳選しているという。

働く親たちが直面する悩み

度がなくなり、このまま仕事を続ける いった仕事と育児の両立に欠かせない制 られる。育児短時間勤務や延長保育と 校に入学すると同時に大きな決断を迫 難しい選択に直面するという。いわゆる か、専業主婦として子育てに専念するか、 小一の壁」である。 仕事を持っている母親は、子どもが小学

る。公的な機関が運営する学童保育と 民間学童保育「キッズベースキャンプ」であ い味方となってくれそうなのが、日本初の る。そんな彼らにとって、壁を越える力強 親やシングルマザー/ファザーも同じであ マザーだけに限らない。共働き家庭の父 そうした壁に直面するのはワーキング

> 新町店を訪れた。 京都世田谷区のキッズベースキャンプ桜 は、どんな点に違いがあるのだろうか。東

声が部屋中に響くほど元気がいい。 で何やらゲームを楽しんでいる。大きな ほどの子どもたちがスタッフを取り囲ん な雰囲気だ。広々としたフロアでは、20人 インテリアや高い天井が、明るく開放的 キャンプの第1号店。白木を基調とした 006年9月にオープンしたキッズベース 静な住宅街の一角にある桜新町店は、2 分。駅からすぐの便利な立地ながら、閑 東急田園都市線桜新町駅から徒歩2

身に任されている。 ている日もあるが、それ以外の日に何を く。特別なイベントプログラムが用意され 天気が良ければ、近くの公園に遊びに行 を広げ、学校の宿題に取り組んでいた。遊 して過ごすかは、基本的に子どもたち自 ぶ前にまず宿題を片付けるのがルール。 は、数人の子どもたちが教科書とノート テーブルの置かれた中2階のスペースで

学童」後の時間をどうするか

提案したのが、民間による本格的な学童 る企業。島根さんがそこで新事業として 新規事業の創出と育成を専門に手がけ のは、自らも共働きで、小学生の男の子2 んが勤務していた株式会社エムアウトは、 人の父親である島根太郎さんだ。島根さ このキッズベースキャンプを立ち上げた







毎週決まった曜日に利用するレギュラー会員に対し 無料で送迎サービスを提供。希望があれば、塾や習い事ま での送迎も行う。19時以降に残る子どもには、有料で栄養 面やアレルギーなどに配慮した夕食も提供している。



多くが注文するという。

学校からキッズベースキャンプ、キッズ

ている。弁当の持参もできるが、利用者の もたちに対しては、昼食や夕食も提供し も安心だ。夏休みや19時以降に残る子ど

たという。 られるような質の高いサービスを目指し 悩みや不安を解消し、そのニーズに応え キャンプでは、そうした保護者の抱える う要望が多かった。そこでキッズベース にとってもっと有意義なものにしたいとい 面に対する心配もあった。また、夏休みな た声や、学童保育での時間を子どもたち め、弁当を用意しなければならないといっ どの長期休み中には給食がなくなるた 学童保育から帰宅する子どもの、安全

平日は夜10時までオープン

ら19時までとし、平日は延長サービスと 預かり時間の基本は学校が終わってか

保育分野で起業を考えていたという。し いう声が多かった」と説明する。 が小学校に通学してからの方が大変、と ングマザーに話を聞くと、「むしろ子ども かし、マーケティング調査のためにワーキ 保育だった。当初、島根さんは未就学児の

> 時半から22時まで。これなら急に残業が できる。夏休みなどの長期休み期間は8

して22時まで子どもを預けておくことが

入ったときや、時間外勤務の多い保護者で

に帰宅するのは難しい。その結果、学童保 ルタイムで働いている親がその時間まで で。首都圏の交通事情などを考えると、フ まで預かつてもらえました。しかし、小学 育の時間が終わった後は、〈カギっ子〉にす と、預かつてもらえるのは17時か18時ま 校に入学し学童保育に通うようになる るしかないと悩む人たちが多かったので 「保育園では延長保育を利用し、19時

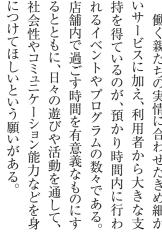
施している。

して塾や習い事までの送迎サービスも実 どもも多いが、希望があればオプションと 消に努めた。最近は塾や習い事に通う子 歩による送迎を行い、保護者らの不安解 ベースキャンプから自宅までは、バスや徒

セキュリティ面では、「入退出情報配

を雇うことを考えたら、リーズナブルと 月が4万2000円。ベビーシッターなど 異なるが、週5日コースで学校のある通常 用する日数や利用月などによって料金は け利用できるスポット会員の2種類。利 用するレギュラー会員と、必要なときだ れて行くという体制も整えている。 悪くなった場合には、スタッフが診療に連 子どもが保育中にけがをしたり、具合が ている。また、近隣の医療機関と連携し、 が記録されたメールが届く仕組みになっ 護者の携帯電話やパソコンに入退出時間 ドリーダーにICカードをかざすと、保 システム」を導入。施設に設置されたカー 会員の種別は、毎週決まった曜日に利

多彩なプログラムも好評



やそうした場所自体が失われています。 に集まり、遊べる空間がありましたが、今 空き地や原つぱなど、子どもたちが自由 することで、豊かな人間性を育む場にし 機会も少ない。そういう空間をここで再現 兄弟姉妹も少なく、異学年で一緒に遊ぶ せようと思っています」と島根さん。「昔は ためにも、子どもたちをとことん楽しま い』と思えるような施設にすること。その 「まずは子どもたち自身が『ここに来た

保育士や幼稚園教諭、小中学校の教員の 応募があるという。「応募してくるのは、 向にあるが、キッズコーチには20倍を超す 育関連の業界は慢性的な人手不足の傾 コーチ」と呼ばれるスタッフの存在だ。保 キャンプの魅力となっているのが、「キッズ 多彩なプログラムに加え、キッズベース

親への仕事インタビューや工場見学などを

分の興味につながる仕事を見つけたり、両

通して、将来の夢や職業意識を育てるこ







利用者から好評なのが、預かり時間中に行われるイベントプログラムの 数々。日常的なマナーや生活技術を身につけるものから、英語、工作、料 スポーツなど多岐にわたる。子どもたちの目線に立って彼らをサポー トする「キッズコーチ」の存在も魅力のひとつだ。

働く親たちの実情に合わせたきめ細か

のキャリア教育。ゲームを楽しみながら自 根さんは説明する。 いていくための土台となるような力」と島 どもたちが自分の生きたい人生を切り開 ている。「社会につながる人間力」とは、「子 を育てる」という方針に基づいてつくられ 各プログラムは「社会につながる人間力 例えば、「キッズMBA」は子ども向け

> 定」に全員で合格することが目標だ。 検定」をアレンジした「子どもマナー ぶ。1年間の終わりには、「中学生マナー は挨拶や言葉遣いなどの基本マナーを学 とが目的だ。また、「マナー&生活技術」

ることができる。 で告知され、会員であれば誰でも参加す グラムは各店ごとのプログラムカレンダー ログラムが用意されている。こうしたプロ ラキッズ研究所」、アート工作やスポーツ ングリッシュ」、ごみ拾いなどを行う「エコボ とした「KBC(キッズベースキャンプ)イ 大会など、1年間を通してさまざまなプ ほかにも、異文化に触れることを目的

らだと思います」と島根さん。夏休みなど たいという家庭が増えている。「こうした であってもキッズベースキャンプに通わせ 家庭が中心だが、最近は母親が専業主婦 んで参加する子どもも多いという。 に興味のあるイベントやプログラムを選 プログラムが高い評価をいただいているか キッズベースキャンプの利用者は共働き

応募者殺到の「キッズコーチ」



日常的なプログラムの中には、近くの公園での 外遊びや掃除なども含まれる。お話を伺った島 根太郎代表取締役社長は「質の高いプログラム を提供し、いつでも夢を持てるような前向き志向 の子どもたちを育てていきたい」と話す。







き寄せられてくるような魅力があるんで よりも経験、経験よりもパーソナリ 材には、子どもたちが楽しくて自然と引 ティーを重視して採用しています。いい人 資格を持っている方が多いのですが、資格

> がけているのは、〈ティーチング〉ではなく 発的に行動できるよう動機づけることが ではなく、子どもたちが自ら気づき、自 うした忍耐力や包容力も要求されてい 時間はかかりますが、キッズコーチにはそ めんなさいと言えるようサポートする。 かがあったときに、自分から非を認め、ご 大切という。「例えば、子ども同士でけん (コーチング)という姿勢だ。「教え諭す」の キッズコーチが子どもに接する上で小

> > ンする予定だ。

に研究に取り組んでいる最中だ。 チの資格化を目指し、現在、専門学校と共 保育施設の視察などを目的とした海外研 師を招いての研修などのほか、昨年度から テーマ。専門スタッフによる教育や外部講 キャンプにとって、人材の育成は最大の 修もスタートした。将来的にはキッズコー 現在、9店舗を運営するキッズベース

少子化の流れを変える試みを

ているという。 考えています」といった声が多数寄せられ れる施設は非常に切迫したニーズがあ こに出店するんですか? 今、引っ越しを 付けている出店リクエストにも、「次はど る」と指摘する。ホームページなどで受け 島根さんは「子どもを安心して預けら

説明会を開催。口コミなどによって週5回 したリクエストが多く寄せられた地域で キッズベースキャンプでは、まずはそう

> この4月には新たに5つの店舗がオープ 件の確保に向けて動き出すのはその後。 まった時点で、正式に出店を決定する。物 利用したいという希望者が20人以上集

信できれば、と考えています」 えられるような動きをこの沿線から発 がら、日本の少子化の流れを少しでも変 何が必要か。東急グループの力も借りな が産み育てられるような社会にするには げている。島根さんは「子どもを多くの人 のインフラを整えることを経営方針に掲 沿線への流入促進を目指し、子育て支援 とに加え、東急グループでは若い世代の なった。店舗の多くが東急沿線にあったこ ベースキャンプは東急グループの一員と 急電鉄に株式を譲渡したことで、キッズ 昨年11月、運営母体のエムアウトが東

も軽減し、子どもたちに質の高い居場所 ことだろう。本来なら国が政策として取 と思う人も増えていくに違いない。 ていけば、自然と子どもを産み育てたい を提供するような施設やサービスが増え が、こうした共働き家庭の負担を少しで り組んでいかなければならない問題だ ではないか、とためらってしまう人も多い た、制度があったとしても、昇進に響くの ら見れば、まだまだ少ないのが現状だ。ま 入する企業が増えてきたが、社会全体か 育児短時間勤務を取得できる制度を導 最近では、子どもが小学校に入学後も

(ライター 千葉 美津芳)

はちの中で遊ぶ

きんしゃい・きゃんぱす

取り戻そうとしている人たちがいる。 失われつつある「また明日」がある遊び場を、子どもの成長のために欠かせないものとして、 当たり前の大人たちがいれば、子どもはおのずと遊びながら育っていく。 特別なことをしなくても、難しく考えなくても、毎日集えるまち中の居場所と



「きんしゃい・きゃんぱす」は商 店街の一角の空き店舗を使っ 子どもの居場所。近所に住む 子どもたちが毎日集い、ここを 拠点として、軒下や路地で遊ん だり、近所の公園に出かけたり する。放課後の時間帯には、通 りににぎやかな声が響き渡る

い気持ちもあり、「カキ氷屋」を始めるこ 単純に自分たちのやりたいことをやりた うのでは、そこにある意味がない。また、 構えてみたのが2004年7月のこと。だ きんしゃい通りの空き店舗に「研究室」を が、学生が本を読んだり、パソコンに向か

> げようか』と言ってくれました_ たら、子どもたちが見かねて『手伝ってあ くて、注文に追いつけずにアタフタしてい たちが集まった。「でも僕らも慣れていな とにした。開店すると早速、近所の子ども

ら「ここ、何?」と聞かれると、子どもが る、〈子ども〉が主語の場所となっていた。 「ここ、子どもが遊ぶところだよ」と答え 所となった。気づけば、通りがかりの人か はまちの大人にも温かく迎えられる場 い。もちろん、保護者たちは安心し、そこ して探りを入れてきたこともあるらし いないか」と警戒し、〈PTAの取材〉と称 学生の実験台にされて危ない目に遭って けた。近所の保護者たちが、「子どもが を呼び、「きんきゃん」に集う子は増え続 はその場所に居つき、その子らが友だち 夏が過ぎても、手伝ってくれた子ども

嗅覚のままに遊ぶ

過ごす子もいれば、お稽古に行く前の数 よってさまざまだ。 分間フラッと立ち寄る子まで、その日に て顔ぶれが変わる。2時間をその場所で せる。半分は常連、半分はその時々によっ 上は中学生まで、一日20名前後が姿を見 時間に合わせて開かれる。下は5歳から、 季は15時半~17時半)、学校の放課後の 「きんきゃん」は、平日の16時~18時(冬

下さんが言う通り、遊び方も自由。「きん また、「プログラムはありません」と山 振り返る。 也さんは、「もともと、子どもの遊び場を 場だ。場を運営するのは、近くの九州大 つくろうとしたわけではありません」と 学・大学院の学生たち。「きんしゃい・きゃ 所は、商店街の一角にある子どもの遊び の方言で「来てください」の意味)には、子 んしゃい・きゃんぱす」と呼ばれるその場 どもたちの元気なはしゃぎ声が響く。「き んぱす」(通称・きんきゃん)代表の山下智 「きんしゃい通り」(「きんしゃい」とは九州 平日の放課後、福岡市内の箱崎商店街

大学が地域に開かれることを目指し、





ここには遊び方のシナリオはない。集まった子どもたちは気の向くまま自由に遊ぶ。 公園で追いかけつこをしたり、いす取りをしたり、オセロをしたり、携帯ゲームを持ち って対戦したり。よく見れば、子どもたちの遊びの輪の中に、とても自然に加わっ 学生スタッフの姿も見つけることができる。





大学生にも放課後の居場所

のメンバーが中心となっている。スタッフ募 うにしているが、気が向いたらふらっと 集は行っていない。うわさを聞いて足を運 れ以降は、山下さんら大学生・大学院生 連合会やNPOと共に立ち上げたが、そ 寄ってしまうというほど、大学生にとって ばかり。一日2名のスタッフは常駐するよ も、心地良い放課後の居場所となっている んでみたら、自然と居ついてしまった学生 5年前のスタート時は、地元の商店街

は、生の子どものエネルギーに圧倒されつ で幅広い。臨床心理学を学んでいる一人 学生の専攻は、教育や心理学、数学ま

る子もいれば、携帯ゲームを持ち寄って友 近所の公園で鬼ごっこやボール投げをす きゃん」の軒下で、オセロや射的で遊ぶ子、 だちと通信対戦する子もいる。

り遊んでしまうことで、子どもも巻き込 嗅ぎ分けられるのが子どもですから」 も、ほかに面白そうなことがあればそち まれていく」。携帯ゲームをやっている子 まうのではない。「むしろ学生も思いっき ものの、ただの「見守る大人」に徹してし らに自然と加わる。「本当に面白いものを とだと思うので」と山下さん。そうは言う を自分で見つけることが〈自由〉に遊ぶこ 点で何か違う気がします。やりたいこと 「これで遊ばせたいと、こちらが思う時

場にも携わっている学生は、遊び方の自由 つも、テキストでは学べない経験を深めて だけ〈自然〉な場にしたいんです」 もいる。そんないろんな人がいる、できる ンと叱れば、『まあまあ』となだめる学生 てしまう」という意識からだ。「僕がガツ どもへの関わり方のチャンネルが限られ という取り決めをしてしまうことで、子 き、スタッフは全員こう対処しましょう、 も多いそうだ。 な「きんきゃん」の場で気づかされること いるという。また、普段から学童保育の現 しない。「例えば、こんな問題が起こったと 学生同士でミーティングを行うことは

毎日何が起こるかわからない

持ちと自分の足で行ける場所にするため 場所で開催したりするイベントは、参加 のみだ。最近、子どもを対象とした実践 行かなければ、と思ったんです。 には、僕たちから彼らの生活圏に入って 者が限られてしまう。子どもが自分の気 みである点に、山下さんは目を向ける。 る。しかし、その多くが「非日常」の取り組 活動はさまざまなところで展開されてい 「とにかく平日は毎日開ける」という一点 の関わり方も自由。こだわっているのは 「休日だったり、子どもの生活圏を越えた 子どもの出入りも、遊び方も、スタッフ

日」があることだ。今日行けなくても明 「きんきゃん」の最大の良さは、「また明 [きんきゃん]はまちの大人にも温かく受け入れられている。通りがかりの 人からこまの回し方や将棋の指し方を教えてもらったり、商店街の人の作 業を手伝ったり、魚屋のお兄さんに厨房に入れてもらったり。大人にと もいつのまにか、子どもたちは日常の風景になっている。

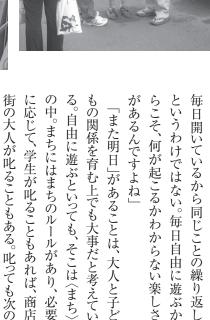












れしい経験となったようだ。

子どもが地域に〈浸着〉する

場だからこそ築ける人間関係がある。

日があるのでフォローができる。〈日常〉の

山下さんは、子どもが「当たり前のよ

ラやビデオカメラを持ち出して取材に追 でいたほかの子どもたちも「面白そうだ 帰って、商店街の魚屋さんに「売りつけよ 遊びに行き、イカやタコをとって戻ってき う!」とたくらんでいたのだ。通りで遊ん た。彼らは、獲物を「きんきゃん」に持ち ね」と盛り上がり、「きんきゃん」からカメ ある日、子どもたちが近所の箱崎浜に

遊びは明日続きをやればいい。「それに、 いたときに行けばいい。今日途中で終えた 日行けばいい。明日行かなくても気が向 場に通し、刺身にしてくれた。自分たち 段入ることのできない魚屋さんの奥まで がとったイカの味は格別だっただろう。普 てあげよう」と、子どもたちを奥の調理 かった。しかし、魚屋のお兄さんは「さばい いかけた。結局、イカは買ってもらえな 入れたことも、子どもたちには、とてもう

がだんだん日常になってくる。そんなじ うになる。魚屋さんも子どもがいる風景 あの日のことをほほ笑ましく思い出すよ どもは、魚屋さんと顔を合わせるたびに、 かし、そういうことが一度あるだけで、子 もに働きかけたわけではありません。し わっとした子どもの地域への根付き方が 〈浸着〉なんです」 「そのとき魚屋さんは、意識的に子ど

い、あるエピソードを話してくれた。 うにその場にいるようになる」状態を、 大人と子どもとの関わりが大事だと言 どもが地域に〈浸着〉するプロセスでは、 (浸着)という言葉で表現する。そして、子

普通の大人」がそこにいる意味

別なことはしていませんよ。取材が来る 議な顔をされた。 の? オレ、遊んでるだけだけど」と不思 た小学生にも、「わざわざ東京から来た ないかな」と言われた。その横で遊んでい のも、子どもは『なんで?』って思うんじゃ 魔すると、学生スタッフの一人からは、「特 取材当日、「きんきゃん」の現場にお邪

のルールで積み上げる男の子たち。建物の るだけだった。「『なんとかタワー』作ろう 」と言いながら、木のブロックを仲間内 確かに、子どもたちは夢中で遊んでい



子どもたちが近所の浜でとって、売り込み に行ったイカは、残念なから店頭には並ば なかったが、魚屋のお兄さんにさばいても らって子どもたちは大喜び。「僕たちは"場" を確保する。後はそこにいる子どもたちが遊 びたいように遊んでほしい」と、「きんきゃん」代表の山下智也さんは話す。







奥の「秘密部屋」をのぞくと、女の子たち、がひそひそ相談しながら、何やら画用紙に書いている。軒下では、壊れたフラフーようなことをしている子もいる。大人の分ようなことをしている子もいる。大人の分ようなことをしている子もいる。大人の分に悪が方は、訳が分からない。しかし、これことが〈遊び〉の自然な姿なのだと気づく。「東京から来たんだよ」と私が言うと、「東京から来たんだよ」と私が言うと、「東京から来たんだよ」と私が言うと、「東京から来たんだよ」と私が言うと、「東京から来たんだよ」と私が言うと、「「東京から来たんだよ」と私が言うと、「「東京から来たんだよ」と私が言うと、「「東京から来たんだよ」と私が言うと、「中でどんな仕事をしているのか、東京をしているのか、東京をいた。飛行機に乗るのは怖くないか、東京でどんな仕事をしているのか、東京をいた。

| 「東東大学・ディー」と 表対 こと 表対 こと 表対 こと 表対 こと 表対 こと 表対 こと 表 が で が な 仕 事をしているのか、東京 タワーは 福岡 タワーより 高いのか、ディズワーは 福岡 タワーより 高いのか、ディズワーは 福岡 タワーより 高いのか、ディズワーは 福岡 タワーより 高いのか、ディズローランドに行ったことはあるか。ひと通め対東京に行く!」と決意を固めた様子だった。「子どもの未来を考える研究員」ではなく、「東京に住む一般社会人」として会話しただけだったが、こんなたわいないやりとりが、子どもにとって意味がある。がもしれないな、とも思った。子どもには子どもにしかわからない世界がある。は子どもにしかわからない世界がある。は子どもにしかわからない世界がある。は子どもにしかわからない世界がある。あるのかもしれない。

場を開き続けるための営み

などをあてながらやっていくという。学生の確保だが、それはこれまで通り、助成金の建物を借りている「きんきゃん」の賃料の後の現実的な課題は、商店街の一角

ている。「それに、子どもたちが『将来、れてたら、また立ち上げる』と言ってくれれてたら、また立ち上げる』と言ってくれれてたら、また立ち上げる』と言ってくれいるので」。つまり山下さんのこれからのと、ただそれだけです」。場所さえあれど、ただそれだけです」。場所さえあれば、そのときそこにいる子どもたちが遊びたいように遊ぶまでだ。

子どもの成長のためになる何かをして子どもの成長のためになる何かをして子どもに働きかけたくなるものだ。しい、子どもがやりたいこと、面白いと思かし、子どもが自然に集って遊べる〈日常ののは、彼らが自然に集って遊べる〈日常ののは、彼らが自然に集って遊べる〈日常ののは、彼らが自然に集って遊べる〈日常のが場〉であり、時々その様子を見守る周囲の「普通の大人」と関わりが持てる、何げなががっちに、大人が子どもと学び、育っていくのが、子どもというものではないか。

現実を見れば、かつての子どものよりところだった路地裏や駄菓子屋は姿を消と、安全対策として、放課後の子どもは学校や施設、家庭に囲い込まれている。このな状況でいつしか失われた、〈まちの中で遊べる場所〉を、子どもの日常世界の中に設け続けようとする営みこそが、「きんきゃん」なのだ。

(HRー研究員 澤田 美奈子)

りを生み出

みやこ子ども土曜勢

地域と行政とが一体となった学びの場づくりが行われている。 子どもを育てるための地域力の活かし方を教えてくれる。 そんな古都の取り組みは、 〈子どもは地域で育てる〉という気風の強い京都のまち。 「学校の外にも、興味・関心を広げてほしい」という願いから、



市民ボランティアによって、京都の伝統文化など、地の利を活 どもたちは、熟練のプロの技に挑戦する中、目を輝かせて生き

-マで実施されているプログラムの数々。参加した子

京都の気風と資源を活かして

塾」)は、土日祝日、夏休みなどの学校の休 を支えている。 誌やホームページで発信しながら、活動 ア主催のプログラム情報を集約し、情報 もたちに提供する事業である。京都市教 活かした豊かな学びと育ちの場を子ど 日に、京都ならではの多様な学習資源を どもや親子が参加できる市民ボランティ 育委員会は、この事業の事務局として子 「みやこ子ども土曜塾」 (以下、「土曜

ティアには、企業、大学、博物館、神社仏 芸能、芸術、スポーツ、自然活動などの 閣、NPOなどが名を連ねている。それぞ ている。京都の伝統文化などをベースに テーマで独自のプログラムを企画・実施し れに、この「土曜塾」の趣旨を踏まえ、伝統 プログラムの主催者となる市民ボラン

> 内容も多い。 験」、「漬物づくり」といった地域性豊かな 「陶芸教室」、「友禅染体験」、「お囃子体

みの間に子どもたちの興味や関心の受け 子どもの教育に対する地域の関心が高 皿となる場所を求める声が高まっていた。 始まり、保護者や学校からは、学校が休 てもらいたいという要望が上がっていた。 それらの活動をもっと多くの市民に知っ く、以前から市民ボランティアを中心に 地域で育てる」という気風の強いまちで、 た。その中で、プログラムの主催者からは、 イベントや出前授業などが実施されてい また、2002年から学校週5日制が 京都市は古くから、「地域の子どもは

当課長、小司敦彦係長にお話を伺い、ひ 委員会事務局生涯学習部の井上博史担 として2004年にスタートした。今回 取りする仕組みを京都市教育委員会が 受ける側双方の要望に応え、情報をやり とつのプログラムを取材した。 は、この事業の事務局である京都市教育 どもの学びと育ちを支援する取り組み 支え、地域社会と行政の協働により、子 「土曜塾」は、プログラムを実施する側

主催者と参加者をつなぐ

けづくりをねらいとしている」と井上担 ざまな分野に興味を持つてもらうきっか 験を通して生きる力を育み、また、さま 「土曜塾は、学校以外の場で多様な体









「能楽体験」「お囃子体験」「お茶体験」など、京都ならではのプログラ ムも多い。参加者は、みやこ子ども土曜塾運営委員会および京都市 教育委員会が発行する情報誌『GOGO土曜塾』で募集している。掲載 されるプログラムは、毎月およそ200件、夏休み時期ともなると250 件近くにも上る。

組みであることがわかる。 場を市民ぐるみで創りましょう」という に〉育てるという意識を大切にした取り スローガンを掲げている。保護者や地域の おり、「土曜塾」でも「子どもを共に育む を共に育む京都市民憲章」が制定されて から声を上げてもらい、子どもを〈一緒 てみてください」などと呼びかけて、市民 か」、「ご近所の子どもたちにも声をかけ **八々に「新たな学びの場を企画しません** 京都市では2007年2月に「子ども

プログラムの周知は、みやこ子ども土

当課長が話すように、そのプログラムは ティーに富んだ内容となっている。 (京都)という地の利を活かしたバラエ

曜塾運営委員会(市民ボランティア等で

供してもらい、できるだけ多くのプログラ カ月ぐらい前までに主催者から情報を提 れる中、事務局では、プログラム実施の2 信機能の充実を図っている。 1情報を情報誌に掲載するという情報発 毎月200件近くのプログラムが行わ

活動が根付いている京都の地域力のなせ でに市民ボランティアを中心に自立した すべて主催者に任せている。そして、子ど がらより良いものにしていく。それは、す もと実際に接する中で試行錯誤をしな るものであれば、内容面には口を挟まず、 の、原則として子どもや親子で参加でき は主催者に対して「できる限り、無料も る業であろう。 しくは低料金で」という依頼はするもの プログラムの実施にあたっては、事務局

> 構成)および京都市教育委員会が発行 私立・国立を含む京都市内の学校から小 期間を除く)として年9回、毎号の発行 誌は毎月発行を原則(春・夏・冬季の休み 管理する情報誌『GOGO土曜塾』と 情報誌に掲載すると参加者が多くなり、反 アからは、「これまではプログラムの周知 うになっている。 中学生に配布され、保護者に行き届くよ 部数は13万部に上る。そのうち11万部は ホームページによって行われている。情報 プログラムを主催する市民ボランティ

響も非常に大きくなっている」という声が聞 かれ、その情報発信力の高さがわかる。 や宣伝が難しく参加者が少なかったが、

学校で体験できない学び

教育センターと京都市小学校社会科教 同組合青年部の協力を得て、京都市総合 で、今回は募集人数を50名に増やしての ログラムが京都市総合教育センターで行 う!』」という小学4年生を対象にしたプ 育研究会が共催で実施している。 実施。この事業は、京都扇子団扇商工協 70名の申し込みのあった人気プログラム われていた。前回は30名の定員に対して 伝統の技を体験! 京扇子を作ってみよ 取材当日は、「子ども体験教室『京都の

と財団法人伝統的工芸品産業協会の教 京都扇子団扇商工協同組合は、もとも



視しています。市内各校では、学校や地域 とらえさせるために体験的な活動を重 である。 り方を実践研究している先生たちの団体 問題意識が活動のきっかけとなっている。 の子どもを持つ親であり、若い人のモノづ の職人さんは、自身も参加者と同じ年代 は、日頃、社会科授業を中心に指導のあ くりへの関心が失われてきていることへの めると、今年で7年目となるそうだ。講師 プログラムを実施するようになっていた。 このプログラムは出前授業の実施を含 方、京都市小学校社会科教育研究会

「学校では社会科での学びを実感的に



子どもにとっては、扇子作りの職人の"匠の技"を目の当たりにできる めったにない機会。「最後まで作ることができて良かった」「実際にやって みると難しかった」「また作ってみたい」など、さまざまな感想が聞かれた。

風土の中で脈々と受け継がれてきた伝統 ており、この京扇子づくりは、未体験の児 産業を活かさない手はありません」と太 体験的な活動は、まさに社会に〈生きて働 らえることができます。社会科における 気づき、喜びや生きがいをも実感的にと とで、そこに生きる人々の工夫や努力に 展させることになります。ものづくりの 童にとっては学校での学びをより深化・発 の実態から取り上げる体験内容が異なっ く力〉となっていくのです。京都の歴史的 プログラムを通して自分で体験をするこ 秦小学校・牧紀彦先生は話してくれた。

ものづくりを通じた交流を

何気なくやっていることが、実はすごいこ 優しく声をかける。子どもからは「プロが 実際の体験からその工夫や苦労を学び は、職人さんの熟練の技に圧倒されつつ、 と」という感想が聞かれた。子どもたち は、なかなかスムーズに進まない子どもに する子どもたちの姿があった。職人さん 竹の扇骨を通す「附け加工」に挑戦してい して自分の力で最後までやり遂げようと しさが伝わってきたが、そこには何とか た。子どもたちの作業の様子から、その難 絵や文字を描いて準備してきた扇面に、 プログラムでは、子どもたちが事前に

講殿尚志代表取締役は、「扇子を通して、 講師役を担当した有限会社幸尚堂の

> 見るようになってもらいたい。子どもたち それをきっかけに関心を持って工芸品を 強を続けていることを、子どもたちにわ 職人である我々も今でもものづくりの勉 話す。扇子作りのプログラムは、子どもと す。また、中には弟子にしてほしいという は作った扇子を大事に持っていてくれま ものづくりの工程に興味を持つてもらい、 もらうための工夫をしています。そして、 対しては、説明の言い回しを柔らかくし けて話すことはしません。子どもたちに かってもらいたい。だから、決して格好をつ 方の心に深く残る経験の場になっている。 小学生もいる。そういう思い出があり、大 て理解してもらい、面白く、楽しく感じて 大人がものづくりによる交流を通し、双 人にとっても楽しめる機会なんです」と

地道な活動によって認知向上へ

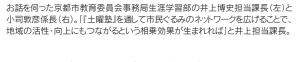
苦労があったそうだ。 はプログラム情報を集めるための大変な ている「土曜塾」であるが、立ち上げ当初 現在は数多くのプログラムが実施され

うに出かけて行っては説明を重ねた。その 報を登録してもらうために、営業マンのよ 塾」がスタートした当初は、事務局のス 理解していただくまでに非常に時間がか 塾』のことを知っていただき、その趣旨を タッフが市民ボランティアにプログラム情 かりました」と小司係長は話す。「土曜 「市民ボランティアの方に、まず『土曜









組みなのである。

りという財産を、次の時代を担う子ども いる。「土曜塾」は、そうした地域のつなが ミュニティーの活動が大切に引き継がれて 見られるように、今も地域に密着したコ られている。また、地蔵盆や区民運動会に 体で子どもの居場所をつくる活動が進め どあらゆる組織の連携によって、社会全 ボランティア・地域諸団体・家庭・行政な とが言われているように、京都では、市民

たちの学びと育ちに活かす新たな取り

するための努力を惜しまない。

年でも参加できる低年齢向けのプログラ 図っている。最近では、幼児や小学校低学 も積極的に取り組んでいる。地域の学び 史を学べる「ジュニア京都検定」の事業に 相談に応じるなど、取り組みの充実も 容や開催時期などについて主催者からの 報発信や、子どもが京都の伝統・文化・歴 加者のもとに出向いて行う出前講座の情 る。新しい展開としては、主催者が直接参 ムが増え、その活動は広がりを見せてい さらに、事務局がプログラムの実施内 そうである 苦労もあって、ようやく実施にこぎつけた

情報誌の活用が進んできた。 参加者の側でも口コミで情報が広がり、 報を登録してくれるようになった。また、 加者が集まることがわかり、継続して情 る市民ボランティア団体は、「土曜塾」に プログラムを登録すれば反応が良く、参 そのような地道な活動の結果、主催す

の場づくりをサポートするための事務局 げられないかと思う」と話してくれた。 官学の連携を、小学校や中学校にまで広 と行政、企業が一緒になって行ってきた産 庭での教育も大切です。また、今まで大学 育のすべてを行うのではなく、地域や家 に子どもを育てていきたい。学校だけで教 の活動は、勢いを増すばかりだ。 地域の方に学校へ入ってきてもらい、一緒 今後の方向性について井上担当課長は

縁の下での地道な努力

地域力こそ、活動の源

「土曜塾」では、〈市民ぐるみ〉というこ

て良いプログラムになりそうな情報を見 ど、場所を提供してくれる人とプログラ 堂を借りて習字のプログラムを行うな 者のもとに出かけている。また、お寺の本 つけると、「土曜塾」への登録を求めて主催 下の力持ちとなって「土曜塾」をより良く ム主催者を結びつけるなど、まさに縁の 現在も事務局では、子どもたちにとっ

ことができるのではないだろうか。 曜塾」に見られるような子どもたちを育 して特色ある取り組みとして広げていく む場は、さまざまな地域でその力を活 んな地域にでも存在するものである。「土 地域力というものは京都に限らず、ど

(HRI研究員 田口 智博)

半世紀にわたつて提供し続けている科学館を訪れた。 科学技術がわかる大人たちがいるのだから。 子どもの好奇心を刺激する〈きっかけ〉を、 暮らしに身近な技術が生まれる現場であり、ものづくりへの情熱と経験とがあり、 企業は「学び」の資源がふんだんにある場だ。



東芝科学館

神奈川県川崎市幸区小向東芝町1番地 (川崎駅よりバス「東芝科学館前」下車) tel. 044-549-2200 http://kagakukan.toshiba.co.jp/

毎週土曜日に開催される科学教室 のひとコマ。先生の話を聞きながら 験や工作に挑戦する。普段の教 室とは違う空間、いつもと違う先生、 見慣れない仲間たち。「学校」という 場では味わえない、新鮮な空気がそ こには流れている。

電気工作に取り組む子どもたち

場に勤める若手社員やOBである。 規模こそ学校のクラスのようだが、ここは タッフの正体も、館員や、平日は東芝の工 ものテーブルに着いてサポートを行うス と呼ばれているのは科学館の館員。子ど 芝科学館の「科学教室」の一風景だ。先生 機メーカーの株式会社東芝が運営する東 学校ではない。神奈川県川崎市、総合電 心に、熱心に電気工作に取り組んでいた。 学生たちが、白衣を着こんだ〈先生〉を中 とある土曜日の昼下がり。40人近い小



館長と、荘司金秋さんにお話を伺った。 積極的に展開する、東芝科学館の三浦明 このような子どもの学びの場づくりを

科学と生活のつながりを伝える

施設」として開館。以来、来館者数は80 学館だ。1961年、東芝中央研究所 とのある読者も多いのではないだろうか 修学旅行や社会科見学などで訪れたこ 年記念事業として「地域に開かれた文化 教育」の実践を担当しているのが東芝科 (現・研究開発センター)の設立時に、85周 万人を超え、年間13万人が足を運ぶ。 東芝の社会貢献活動の一つ、「科学技術 の方法論をベースにしている。先生が行う う、小学校の中・高学年を対象にしたも ログラムは、まず先生が参加者に電気の の。米国の科学教育プログラム「GEMS」 気回路を応用したおもちゃを作るとい 性質に関する簡単な講義を行った後、電 「電気の不思議」と題されたその日のプ



館内には、電気製品の歴史から、半導体やデジタル画像 などの最先端技術まで触れることができる。製品のしく みや暮らしとのつながり、未来の科学技術を体感しなが ・も人気を集めている。





のような社会背景の中から、どういったイ

ノベーションの足跡を経て誕生してきたの

らいたいのは、製品がどんな仕組みで、ど はない」とも付け加える。来館者に見ても

かである



の家で親しんでいた電化製品にめぐり合 うれしいですね」と三浦館長。かつて自分 見せることが、ファンづくりにつながれば 跡を語りかける。「東芝の技術の歩みを 裏にある技術者たちのたゆまぬ努力の軌 社会の中における科学技術の歴史やその ワードプロセッサーなどがずらりと並び、 世に送り出した電気釜、テレビや冷蔵庫、 うコーナーでは、東芝が国内初・世界初で る大人の来館者も多いとのことだ。 い、「懐かしい」と足を止め、思い出にひた 例えば、「東芝一号機ものがたり」とい

り、確立されているようなもの り、すでに原理や仕組みが明らかにな り、体験したりすることができる。「教科 ターカーやデジタル映像技術、工場内で などの最先端技術、開発中のリニアモー の科学館ならではだ。半導体やユビキタス 術や開発中の技術に触れられるのも企業 ではめったにお目にかかれない、最先端技 書に載っているような科学技術 活躍する産業ロボットなどを間近に見た また、理科の教科書や普段の生活の中 ーでは

> の生活に入ることで、これからの社会が と三浦館長は話す。新しい技術が私たち いめぐらせながら展示を楽しむことがで どんな風に変わるか、近未来の社会に思 るだけタイムリーにお見せしています。 技術や急展開を迎えている技術を、でき なく、まさに今、社会の中で活躍している

にわたる東芝の企業活動の歩みをアーカ

三浦館長は、科学館を「130年以上

イブする場」としてまず位置づけるが、

「製品を宣伝するための『ショールーム』で

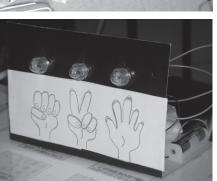
実際に体験できるものを

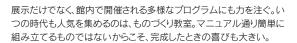
という願いからスタートしたのだそうだ。 ている、何か体験できる、何か作ることが と、いつも何かしら面白そうなことをやっ もが土曜日や夏休みに足を運んでみる 供したいと思ったから」と振り返る。子ど だけでなく、実際に体験できるものを提 たきっかけは、来館者がただ展示を見る は、「展示以外にも力を入れるようになっ 25年以上というベテランの荘司金秋さん 15年以上になる。科学館の仕事に就いて 行っているのが大きな特長。冒頭で紹介し ると、「ソフト」にあたるイベントも数多く した各種プログラムの開催は、かれこれ たような、土曜日の科学教室をはじめと 携帯電話やパソコン、ゲーム機を使いこ 科学館における展示物を「ハード」とす 一科学館がそんな場になれば、

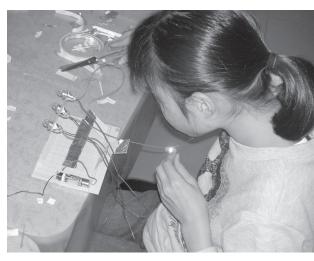
ているのか、その背景にはどんな開発技

品がいったいどういう仕組み・原理で動 ジタルユーザーである。だが、「それらの製 なす今の子どもたちは、大人顔負けのデ











色あせないものづくりの魅力

どもはどれだけいるのだろう」という問題

そ、子どもたちの自由な発想や工夫を活意識を荘司さんは抱えている。だからこ

かすプログラムづくりを目指してきた。

術があるのか

-そんな疑問を持てる子

イベントを始めて以来、プログラムの分を集めるのは「ものづくり」だという。「そを集めるのは「ものづくり」だという。「それも、市販されているキットを組み立てるようなものではありません。半田付けるようなものではありません。半田付けを活用した電気工作や、モーターから自分で作る自動車など、ほかの場所でできないこと、どこの店でも売っていないものを作るプログラムが人気。キャンセル待ちの状態になることも珍しくありません」。マニアル通りに組み立てて簡単にできてしまうものではないからこそ得られる達成感は、いつの時代の子どもにとっても普遍的な喜びとなるのだろう。

三浦館長は「展示では、科学技術の裏にある『歩み』や『物語』を伝えたい。実験の『試行錯誤』『創意工夫』を体験してもらいたい」と言う。展示でもプログラムでも、東芝科学館が子どもたちに伝えたいも、東芝科学館が子どもたちに伝えたい。大学や科学技術の面白さであるそ潜む、科学や科学技術の面白さであることに変わりはない。

に携わる中で、ある変化が気になっている。来館者やイベントの参加者が低年齢化しているということだ。20年前は小学校5、6年生が多かったが、最近では小学校1年生から3年生が多くなってきた。今の小学校の高学年は何かと忙しく、来館のチャンスが減ってきている。だが、「工作もただ作るだけに終わってしまうのではなく、仕組みや原理への理解を交えながら作るという面白さが一番伝わりやすい、小学校高学年の子どもにも足を運すい、小学校高学年の子どもにも足を運すい、小学校高学年の子どもにも足を運んでほしい」という思いがある。

持続的な好奇心につながる刺激

最近の活動範囲は館外にも及ぶ。団体見学で来館し、実験工作教室などの様子を知った小学校の先生たちから「ぜひ、うちの学校に来てもらえないか」というリクエストが増え、2年前から「出張授業教室」を始めた。館員が講師となって小学校やそのほかの児童施設に出向き、実験プやそのほかの児童施設に出向き、実験プログラムを行うというもので、現在、年間的60回実施し、さらに要請が増えている約60回実施し、さらに要請が増えている場ができる。

激は、新たな興味や関心につながる〈トリー・ は、〈インパルス〉――つまり非常に強い興は、〈インパルス〉――つまり非常に強い興味と関心を引き起こすこと。これは一過味と関心を引き起こすこと。これは一過学校と科学館の学びの違いについて、三学校と科学館の学びの違いについて、三学校と科学館の学びの違いについて、三

ただ、荘司さんは長年、科学館の活動







お話を伺った三浦明館長(左)と、ベテラン館員の荘司金秋さん(右)。三浦館長は「これからも私たちにできることを発信し続けていきたい」と話す。





館員だけでなく、東芝の社員やOBらのボランティアも、プログラムのサポーターとして活躍している。科学や技術を媒体に、社会とコミュニケートしていく場はますます広がっていきそうだ。

企業だからこそできること

割だと、三浦館長は考える。

になること。それが、学校と役割を異にし

ながらも、企業の科学館が担う重要な役

すると、東芝科学館が目指すのは、子ど枠組みの中で総合的に学ぶ場が学校だと

もたちに学びの「きっかけ」をつかむ場所

の持続的な好奇心につながる刺激になる

ことは大いにありうることだ。体系立った

半世紀にわたって運営を続けてきた東芝科学館の今後について、三浦館長は「奇をてらったことをするのではなく、私たちができる範囲でやれることをずっと発信し続ける。そうした方針を、これからも、半世紀にわたって運営を続けてきた東

タッフが活躍していた。例えば、電気工作教室でも、そんな社員のボランティア・スいるそうだ。今回見学した土曜日の科学外でのボランティア活動の参加を促して最近、東芝社内では、社員に対して社

仲間と学びの空間を共有する。そんな非 い人から話を聞き、学校では出会えない 行われるものでもない。しかし、学校とい 訪れる場所ではない。出張授業も毎時間 違う場所に身を置き、学校の先生ではな う日常の場を離れ、科学館といういつもと ガー〉になることもあると思うのです」 経験だったとしても、その後の子どもたち 日常の体験は、それ自体はその場限りの 多くの子どもにとって、科学館は毎日 としている姿が心に残った。 の経験と言葉で、子どもたちと関わろう ちなどだという。技術者の立場から、自ら 東芝の工場でエンジニアとして働く人た …」と語りかけていたスタッフは、普段は 中には『半導体』という部品が入っていて てね…」「みんなも持っている携帯電話の 気を通さない『絶縁体』っていうものがあっ のサポートをしながら、子どもたちに「電

て、科学館や研究所に「技術開発や特許て、科学館や研究所に「技術開発や特許で、科学館や研究所に「技術開発や特許なむという。科学技術を生み出す現場に関わる仕事について教えてほしい」という中学生からの申し込みがたびたび舞いう中学生からの申し込みがたびたび舞いらかという。科学館や研究所に「技術開発や特許ないという。科学館や研究所に「技術開発や特許ない。

確かに企業にとって教育は本分ではない。しかし、そこには実物があり、ものづくりの経験や物語があり、技術の専門知ることのできる人々がいる。科学技術なしには一瞬も成立しない今の社会において、企業だからこそつくることのできる「学びの場」の意義は大きい。時代によって子どもの置かれている環境は変わるが、子どもの置かれている環境は変わるが、子どものを介を経ても変わることがない科学や科学技術の魅力を、子どもたちに脈々と伝学技術の魅力を、子どもたちに脈々と伝

(HRー研究員 澤田 美奈子)